

■現計画の具体的な施策と実施スケジュール

施策		実施主体	R4	R5	R6	R7	R8
(1)	既存バス路線の維持	吉田町、静岡県、国、吉田町地域公共交通協議会、バス事業者	継続して実施				
①	バス路線の見直し 島田静波線	吉田町、吉田町地域公共交通協議会、バス事業者、タクシー事業者、住民、警察、道路管理者、経路変更の影響が及ぶ他市	関係機関と調整、バス停選定	経路変更	継続して実施		
(2)	バス路線の見直し 藤枝相良線	吉田町、吉田町地域公共交通協議会、バス事業者、住民、警察、道路管理者	関係機関と調整、バス停選定	バス停新設	道路実施目途つき次第経路変更		
(3)	通学定期券購入補助制度導入	吉田町、バス事業者	関係機関と調整	導入	継続して実施		
(4)	交通案内リーフレットの作成・配布	吉田町、吉田町地域公共交通協議会、バス事業者、タクシー事業者、吉田町社会福祉協議会	作成配布	(2)、(7)、(10)等に合わせて随時実施			
(5)	高校通学における公共交通利用方法案内の実施	吉田町、バス事業者、学校関係者	関係機関と調整、情報収集	作成、周知	周知		
①	交通拠点の整備 「吉田インター入口」バス停	吉田町、静岡県、国、吉田町地域公共交通協議会、バス事業者、タクシー事業者、警察、道路管理者	関係機関と調整、整備方法検討	拠点整備			
	交通拠点の整備 「(仮称)小山城」バス停	吉田町、吉田町地域公共交通協議会、バス事業者、警察、道路管理者	関係機関と調整、バス停選定	バス停新設	駐車場供用開始		利用状況を鑑みて継続可否判断
(6)	交通拠点の整備 「片岡北吉田特別支援学校」バス停	吉田町、吉田町地域公共交通協議会、バス事業者、タクシー事業者、警察、道路管理者	バス停上屋・バスロケーションシステム整備				
④	交通拠点の整備 「吉田町役場」バス停	吉田町、吉田町地域公共交通協議会、バス事業者、警察、道路管理者	関係機関と調整、整備方法の検討	拠点準備	拠点整備		
(7)	公共交通待合環境の整備	吉田町、吉田町地域公共交通協議会、バス事業者、警察、道路管理者	随時実施				
①	バス路線の見直し(再掲) 島田静波線						
(8)	バス路線の見直し(再掲) 藤枝相良線						
(9)	「町内を走る新しい交通」の導入	吉田町、吉田町地域公共交通協議会、タクシー事業者、住民	協議体構築、関係機関と調整、内容確定	導入(実証実験)		実績を踏まえ利便性向上策追加	本格運行移行可否判断
(10)	「町内を走る新しい交通」のスマートフォン予約割引、小中高生割引の設定	吉田町、吉田町地域公共交通協議会、タクシー事業者	(10)の導入に合わせて実施				
(11)	高齢者・障害のある人に向けた移動支援の継続と充実	吉田町、吉田町地域公共交通協議会、タクシー事業者、吉田町社会福祉協議会	関連各課と連携し、随時実施				
(12)	運転免許返納者・返納予定者に向けた公共交通利用の周知	吉田町、吉田町地域公共交通協議会、警察	関連機関及び各課と連携し、随時実施				
【参考】関連する町各種計画							
	吉田町総合計画		第5次(後期)		第6次(前期)		
	吉田町国土強靱化地域計画						
	吉田町都市計画マスタープラン		改訂年度				
	吉田町地域福祉計画		第3期	第4期			

■達成状況

	達成状況	現状	R8年度の取り組み
(1)	○	継続して維持	継続して維持
(2)	△	“ぎゅっと”カーの運行により、当該地域の移動不便は軽減。	住民意向確認 ※住民懇談会にて実施
(2)-①		同上	同上
(2)-②		同上	同上
(3)	×	未実施 財政的に困難	導入が望ましいが、予算化できていない。 ※導入の仕方に工夫が必要で新計画策定時検討。
(4)	×	未実施	パンフレットを制作
(5)	○	R6-7に、在校生、オープンキャンパス(中3)、探求授業時にパンフレット配布。 実施するも、効果は薄かった。	バスと“ぎゅっと”カーの乗り継ぎキャンペーン等と合わせる等訴求方法を工夫し実施。
(6)	○	拠点整備に着手	完成までコンビニに待合所の協力を依頼するなど、乗り継ぎ拠点としての意識醸成。
(6)-①			
(6)-②	×	未実施 上位計画での言及・進展なし	上位計画との調整を踏まえ、新計画での言及について継続/中断を判断。
(6)-③	×	土地の問題解決に取り組むも開設の見込みなく断念。	—
(6)-④	○	コンテナタイプの待合所を設置し、達成。	—
(7)	×	未実施	路線バスだけでなく“ぎゅっと”カーも対象に加え待合所ニーズを把握。 ※住民懇談会にて実施 公共施設、商業施設等へ働きかけ、実現の可能性を探る。
(8)-①			
(8)-②			
(9)	○	本格運行への移行の可否判断を前倒して実施。 21条から4条へ移行。	バスとの連携強化、キャッシュレス化、補助員、子ども特別便、スポンサー獲得など機能拡張を検討、実施。
(10)	○	子ども割引回数券を導入。スマホ割引は、使い方教室などの実施で普及が進んだため、割引の実施は無し。	子ども割引回数券は継続。スマホ割引は目的達成のため実施無し。
(11)	○	“ぎゅっと”カーの導入により実施。 “ぎゅっと”カー福祉割引も実施。	福祉課との連携事業化を検討。 ・“ぎゅっと”カーの補助員同乗のしくみづくり。 ・「通いの場」割引の導入。
(12)	○	“ぎゅっと”カーの高齢者向け説明会の実施。 ※運転免許返納者・返納予定者が多数参加。 警察での“ぎゅっと”カーパンフレットの配布。	警察との協業により教習所での高齢者教習時等での“ぎゅっと”カー紹介機会の創出。